



原著

## 看護係長がオープンキャンパスに関わることによる 現状と今後の課題

山田 寿美, 松永 敬三, 櫻木 秀幸, 大角 洋子, 中川 加奈子  
棚田 百合子, 西村 美弥子, 猪谷 和美, 木下 香子, 後藤 ゆう子  
奥野 純子, 旭 理恵, 木村里美, 松並 睦美

済生会滋賀県病院 看護部

論文受付 2018年6月1日

論文受理 2018年7月19日

### 要旨

平成24年度より滋賀県済生会看護専門学校のオープンキャンパスにおいて当院の看護を伝えることで、当院への就職の契機や入職に繋げることを目標に看護係長がブース企画や病院見学を運営してきた。現場の看護師がオープンキャンパスに協力している病院はほとんどなく、この活動が、看護学校入学や当院の入職に繋がったのかは実証されていない。今回、看護係長が関わることによる現状と課題を明らかにするために、オープンキャンパスに参加した就職者にアンケート調査を実施した。それらの結果分析より、オープンキャンパスでの取り組みが少なからず入学や入職に繋がっていること、正の意見が多く聞かれたことから活動の意義が明らかになった。そして、看護の魅力伝えるためには「看護を語る」ことが重要であるという課題が明らかになった。看護師のキャリア形成は様々であり、それぞれの経験や専門職の強みを活かし、実践していくことが重要であると考える。

### はじめに

近年、少子高齢化・保健医療環境の変化に伴い、看護師確保の重要性が増大している。加えて、医療の高度化・専門分化により高いレベルでの教育と保健師・助産師の同時教育展開が求められ、看護大学が増加している。その結果、看護学校が減り、看護学校の入学数も減ってきている。そこで、平成24年度より滋賀県済生会看護専門学校のオープンキャンパスにおいて済生会滋賀県病院の看護を伝えることで、当院への就職のきっかけや入職につなげることを目標に看護係長がブース企画や病院見学などを運営してきた。現場の看護師がオープンキャンパスに協力している病院はほとんどなく、この活動が、看護学校入学や当院の

入職につながったのかは実証されていない。オープンキャンパスを行っている大学等の研究によると、学校側の就職における取り組みとして、オープンキャンパスは、説明会やガイドブック等と比較して特に大きな影響力を持っていると述べている<sup>1)</sup>。今回、オープンキャンパスに参加した就職者にアンケート調査をすることで、看護係長が関わることによる現状と今後の課題が明らかになったため、ここに報告する。

### 対象と方法

平成24年以降の滋賀県済生会看護専門学校のオープンキャンパスに参加し、平成24年4月から平成29年8月までに当院に就職した看護師35名

(1年目13名, 2年目14名, 3年目8名)に記述式のアンケート調査を行い, その結果を単純集計し, 自由記載の箇所においてはKJ法にてカテゴリ別に分類し, その結果を分類毎に分析する。

## 結 果

オープンキャンパスに参加し当院に就職した看護師1～3年目の35名にアンケート調査を行った。アンケートの回収率は100%。対象者は現在在籍者のうち1年目26.5%, 2年目33.3%, 3年目21.6%であった。在籍者の約3割がオープンキャンパスに参加し, 入職している結果がでている。しかしオープンキャンパスは2日間と日程が決まっていること, すでに離職している者の割合が12.3%であることから, 入職者の割合はおよそ

であると言える。アンケート結果は表1参照。

アンケートの結果3. 4の自由記載の結果をKJ法によるカテゴリ編成の結果, カテゴリを5つに分け, 更に肯定的な意見・否定的な意見の2つの大カテゴリに分けた。

1つめのカテゴリは「初めて病棟を見学することができ, 新鮮な気持ちと病棟の雰囲気を知ることができ良い機会となった」「院内全体の雰囲気が明るく自分もこういう環境の中で働きたいと思いました」などのラベルが集約され, これらを「①ポジティブな病院の印象」と命名した。

2つめのカテゴリは「DVDを見て, 病院のイメージがついたため多少の不安の軽減に繋がった」「病院のDVDに興味があり, よく見ていたのを覚えています」などのラベルが集約され, これらを「②視覚的印象」と命名した。

表1 オープンキャンパスにおけるアンケート結果

1. 自身の現在について	
1) 経験年数	看護師1年目: 13名 看護師2年目: 14名 看護師3年目: 8名
2) 滋賀県済生会看護専門学校の卒業学科, または他校卒業	第1学科 : 28名 第2学科 : 1名 他校卒業 : 4名
2. 滋賀県済生会看護専門学校のオープンキャンパスに参加した理由 (複数可)	①看護学校への興味 : 30名 ②病院への興味 : 6名 ③病院で働く看護師への興味: 4名 ④開催内容への興味 : 0名
3. 看護係長主催の企画への参加	はい : 9名 いいえ : 23名
1) 「はい」と答えた方の参加企画(複数回答可)	看護部ブース: 5名 病院見学 : 5名
2) 参加した際の印象(自由記載)	
4. 看護係長主催の企画に参加し, 入職の決め手となったことはあるか  入職の決め手の理由(自由記載)	はい: 8名 いいえ: 1名
5. 他校のオープンキャンパスへの参加はあるか  他校に参加した際の印象(自由記載)	はい: 18名 いいえ: 12名 無記名: 5名
6. 今後希望する企画や内容(自由記載)	

3つめのカテゴリーは「ドクターヘリを見学し、自分もこのような仕事に携われるようになりたいと思った」「フライトスーツを試着しました。ドクターヘリに対してカッコイイイメージがあり憧れました」などのラベルが集約され、これらを「③ドクターヘリへの憧れ」と命名した。

4つめのカテゴリーは「職員さんと話す機会があり、病院の興味や実際に働いている方の生の声が聞けたことが印象に残っています」「救急部で働いている方との話ができて、自分も一緒に働きたいと思いました」などのラベルが集約され、これらを「④現場で働く職員への憧れ」と命名した。

5つめのカテゴリーは、「係長主催の企画があることを知りませんでした」「覚えていません」などのラベルが集約され、これらを「⑤ネガティ

ブ意見」と命名した。

この小カテゴリー①～④を肯定的な意見とし、小カテゴリー⑤を否定的な意見として分けた。結果は表2を参照。

## 考 察

看護係長の役割とは、臨床現場の最前線で、変革を起こすリーダーシップが求められている。主任に求められるリーダーシップとは、方向性を明らかにして目的を定め、医療や教育の現場において看護師・多職種・看護学校・地域の人など様々な人との関係性の中で発揮されるものと言える<sup>2)</sup>。

オープンキャンパスは学校に関心のある学生や

表2 アンケート結果をKJ法にてカテゴリー化

カテゴリー①	ポジティブな病院の印象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めて病棟を見学することができ、新鮮な気持ちと病棟の雰囲気を知ることができ良い機会となった</li> <li>・病院の規模が大きく憧れに近づけたと思った</li> <li>・病院の雰囲気など今まで知らなかった部分をたくさん知り、それが入職の決め手となった</li> <li>・各部署について詳しく知ることができた為</li> <li>・院内全体の雰囲気が明るく、自分もこういう環境の中で働きたいと思いました</li> <li>・病院の雰囲気の印象が良かった</li> <li>・看護学校や病院の雰囲気が良いと思った</li> <li>・スキルラボで新人教育を行っているという教育体制が整っているのだと思いました</li> <li>・急性期の総合病院であるため</li> <li>・奨学金制度があったため</li> </ul>
カテゴリー②	視覚的印象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DVDをみて、病院のイメージが良かったため多少の不安の軽減に繋がると思う</li> <li>・DVDで病院見学をうけ、この病院のイメージが良かった</li> <li>・病院のDVDに興味があり、よく見ていたのを覚えています</li> <li>・スライドの中で災害訓練についてあげていて興味を持ちました</li> </ul>
カテゴリー③	ドクターヘリへの憧れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドクターヘリのある病院ってカッコイイと思い、医療の先を行く済生会で働きたいと思いました</li> <li>・ドクターヘリを見学し、自分もこのような仕事に携われるようになりたいと思った</li> <li>・今の看護部長と話したこと、フライトスーツを試着しました。ドクターヘリに対してカッコイイイメージがあり、憧れました</li> </ul>
カテゴリー④	現場で働く職員への憧れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急部で働いている方との話ができて、自分も一緒に働きたいと思いました</li> <li>・職員さんと話す機会があり病院の興味や、実際に働いている方の生の声がきけたことが印象に残っています</li> <li>・病院全体の雰囲気が明るく、どの職員の方もテキパキと働いている印象</li> </ul>
カテゴリー⑤	ネガティブ意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際DVDは印象に残ってないです</li> <li>・そのような企画があることを知らなかったです</li> <li>・係長主催の企画があることをしりませんでした</li> <li>・覚えていません</li> <li>・まだ入職まで考えていなかったため</li> <li>・参加していなかった</li> </ul>

その家族に学校のことを知ってもらうためのイベントである。公開するのは施設のみならず、その学校の入学や進学、就職などに関するさまざまな情報がある。実習病院でもある当院の雰囲気や教育体制などを現場の看護師が伝えることでまずは看護学校への入学、そして当院への就職へとつながるのではないかとこの考えから看護師のブース、病院見学などは現場のリーダーである係長が関わることとなった。

実際のアンケート結果からは、在籍者の内の約3割がオープンキャンパスに参加している。その内で25.7%が看護部ブースに参加しているが全体の参加人数からすると少ない印象がある。カテゴリ⑤の意見にもあるように「オープンキャンパスに係長が関わっていることを知らなかった」「看護師ブースの存在を知らなかった」という意見もあり、企画のアピール不足が考えられる。病院見学は希望者のみであり、人数制限を設けているため事前申し込み制としている。しかし、ブース企画は当日に知らせており、具体的な催し内容や現場の看護師が主催していることを伝え興味や関心を持ってもらう必要がある。また、学校での企画と看護師ブースの企画の内容を把握し内容が重ならないようにしておく必要もある。

看護部ブースの参加者の88.9%が入職の決め手となっており、看護師ブースや病院見学での関わりが有用であったと言える。

自由記載の結果をKJ法によりカテゴリ分類すると、①ポジティブな病院の印象 ②視覚的印象 ③ドクターヘリへの憧れ ④現場で働く職員への憧れ ⑤ネガティブ意見となった。

①ポジティブな病院の印象においては、病院見学においての病院の外観や内観、病棟の雰囲気など視覚的印象の意見が多くあった。病院見学校所は、当院の強みを見せる場所や普段見学しにくい場所を検討し、係長会議で決定している。今年度は、病棟、スキルスラボ、入退院センター、ドクターヘリであった。より具体的な雰囲気や各部署の役割を伝えたいとも考えて、各部署と連携し、実際にその部署で働く看護師や看護係長にその場

での対応を依頼した。スキルスラボは実際に触れることもでき、ドクターヘリにおいては内部の構造の見学も可能であった。これらの取り組みは今回のアンケート結果からもわかるように、病院や看護師への憧れや良い印象につなげることができている。しかし、漠然とした印象だけでなく、実際の看護実践は、厳しさと難しさがああり、そこに看護の魅力があるということも伝えることも重要である。今後は、実際に入職した新人看護師や先輩看護師の声を紹介できる企画や、実際の看護の場面のパネル展示などを企画していきたい。

②視覚的印象については、看護部ブースで放映したDVDの印象の意見が多くあった。DVDは毎年内容が異なるものの、病院のイメージをより印象づけるものとなっている。病院案内、各病棟の雰囲気を示す内容、災害訓練など院内での取り組み状況を集約したものであり、興味の分野が広がる取り組みと考える。近年の学生は情報化社会において、インターネットでの学習が発達し、視覚からの情報を取り入れやすい傾向にある。そのためDVD放映は、病院の魅力を伝えるのに有用であったと考える。内容について、今回の企画では病棟紹介を放映していた。しかし今後は、病棟紹介に加え実際の患者との関わりや多職種間での調整の場面など、実際の現場での雰囲気を伝える内容に改善していきたい。そして、現場のリーダー的役割である看護係長がDVD作成・放映を担当し、実際に放映の場にいることで、参加者の疑問の解決や、その場で看護の魅力を伝えることに繋げたい。

③ドクターヘリへの興味においては、実際のヘリ見学やフライトスーツ試着からの憧れや興味が多くあった。当院は3次救命救急センターの指定を受けており、病院が掲げる3本柱の1つである。現場の説明はヘリナースに依頼したが、当日の調整、フライトスーツ試着に看護係長が関わることで学生が親近感を持ち、そのことから会話が繋がる事が多くあったため、看護の魅力を伝える契機になったと考える。

④現場で働く職員への憧れについては、病院見

学の際にすれ違う職員の明るい印象や、看護部ブースでの看護師との関わりまで多くの意見があった。ブースでの関わりとしては、実際の看護師の生の声が聞けたこと、疑問の解決ができたことが、漠然とした不安の軽減に繋がっていると考える。今年度の参加者の中には、通学や通勤方法、社会人入学の方の現状など、多岐に渡る質問があった。しかし、雰囲気やイメージだけでなく、看護を伝えることは「看護の現場を見せること」「自分達の看護を語る」ことが必要と考える。

主任看護師に求められる力として厚生労働省は、スタッフ看護師に最も近くに存在するよき理解者として、スタッフ看護師のロールモデルとなり教育にあたりとともに、看護の実践を通して、各自の看護観を明確化し、看護を語れる力をもつことを掲げている<sup>3)</sup>。病院見学において、短い時間ではあるが現場を見せることは少なからずできた。「看護を語る」という意味では、看護部ブースの環境設定から雰囲気づくり、疑問の解決に努めたが、実際の自身の体験談や看護観などを伝える場面は少なかったように感じる。看護師のキャリア形成は様々であり、当院においても看護師は病棟、外来、内視鏡室、手術室、透析室、入退院センターなど様々な場所で活躍している。そして、当院には多くの分野において専門看護師、認定看護師が在籍している。専門職の強みとそれぞれの経験を活かし、学生だけでなく職場の後輩などに看護を語ることで、看護の魅力を伝えられる事ができるのではないかと考える。

今後に希望する企画や内容として病棟の雰囲気が分かるDVD放映、座談会、患者体験、病棟看護師のシャドーウィング、看服の試着などの多くの意見があった。これらは、この数年の間に既に実施しているものも多く、体験や現場の看護師と深く関わる内容のものが多い。これらを次年度からの企画運営に活かしていくことが必要である。

今回、オープンキャンパスに着目して、自分達の活動が少なからず学校入学や入職に繋がっていること、肯定的な意見が多く聞かれたことから、活動の意義が明らかになったと考える。そして、

看護の魅力を伝えるためには「看護を語る」ことが重要であるという課題が明確になった。これらを踏まえて次年度以降も、看護係長が中心となり、「看護の魅力を伝える」ために実践していきたいと考える。

## 結 語

1. オープンキャンパスでの看護係長の関わりは少なからず、入職に繋がる関わりとなっている。
2. オープンキャンパスにおける、企画運営は「看護の魅力を伝える」上で有用であった。
3. 今後も、近年の学生の特徴やアンケート結果を踏まえながら、看護係長が中心となり、オープンキャンパスに参加していく必要がある。
4. 次年度の取り組みとして、実際の看護の場面を伝えられるパネル展示やDVDを企画する。
5. 新人看護師や先輩看護師の生の声を伝えられる企画をする。

## 参 考 文 献

- 1) 平尾智隆：ある国立大学における入試広報の結果測定～志望順位を決定する要因～，大学評価・学位研究，2011；12：19-28
- 2) 岡山ミサ子：変革を起こすためのリーダーシップの発揮とは，主任看護師，2017；27：8
- 3) 千葉今日子，富田幸江：主任看護師の立場にある実習指導者の実習指導に対する意識の特徴，埼玉医科大学看護学科紀要，2017；10：29-39
- 4) 村瀬智子：熟練看護師の看護観を変えた経験～2人の熟練看護師のライフヒストリーの比較～，豊田看護大学紀要，2014；9：35-54
- 5) 北里 淳：コンサルタントから見た看護専門学校のアピール法，看護教育，2012；53：574-578
- 6) 木尾哲郎：九州歯科大学オープンキャンパスの概要とその評価，九州歯科誌，2009；24-31